

しぜんをたいせつに

～自然と命のかかわりから、地球温暖化対策の基盤を築く～

校種・学年	小学校 第2学年	教科等	道徳科「しぜんのいのち」
時間・学期(月)	1時間・1学期(7月)	副読本	P. 2～3「温暖化のニュース」 「埼玉県の大雨被害」
準備等	音源・写真資料等		

1 ねらい

身近な自然に親しみ、自然のもつすばらしさを感じることで、動植物の命を慈しみ、大切にしていこうとする態度を養う。

2 伸ばしたい資質・能力

- 自然のもつすばらしさに気付く力
- 自然について自分に引き寄せて考える力
- 動植物の命を慈しむ心

3 指導計画(全1時間)

時間	主な学習活動・内容等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の「しぜんのいのち」の詩を聞き、感想を話し合って本時の学習課題へと繋げる。 ○ 森や川の流れの音声を聞き、自然について想像を膨らませる。 ○ 生き物たちの自然と関わって生きているという生態を知る。 ○ 自然の中で生き抜く生き物たちを知り、自然について思ったことや考えたことを話し合う。 ○ 今までの自分を振り返り、学んだことをワークシートに記入する。

4 本時の学習指導(本時 1/10)

時間	学習活動	留意点 ★冊子の活用等
10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な自然についてイメージをする。 ○ 川の流れや森の中の音を聞いて、自然を想像する。 ○ 教材の内容を知り、学習課題をつかむ。 <u>自然について考えよう。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の身近な動植物を取り上げ、ねらいとする道徳的価値に興味関心を持たせる。 ○ 教科書を閉じ、目をつぶって音を聞くことで耳からの情報だけで情景を思い浮かべることができるようにする。
30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詩の読み聞かせを聞き、考えたことを話し合う。 ○ 自然の中で生き抜く生き物たちの生態を知り、生きるために自然が不可欠であることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵の写真とともに詩を目で追いながら聞くことで、自然へのイメージを膨らませる。 ○ 教科書に出てきた挿絵を基に、生き物の生態について具体的に知ることで、自然の必要性を身近に感じられるようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 副読本P.3を読んで地球温暖化を知り、今日の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 副読本P.3の写真を見て、人間が自然に与えている影響とそれによる被害を学ぶ。



5 他教科等とのつながり

- 2年生特別活動「大切なしぜん」
- 生活科「大きくなあれ、わたしのやさい」

6 社会とのつながり**7 おすすめのポイント（さらに、効果アップ！）**

- 道徳の授業で学習したことを基に、自然を大切にするために自分たちができることを考える特別活動を行うことで具体的な行動に結び付ける。
- 特別活動の授業を行った後、「エコライフDAY」に取り組み、身近なことから自然のために行動できるようにする。

8 授業後の児童の感想、参観された方の感想など

- 児童の感想では「自然は別になくてもいいと思っていたけれど、自然のことを学んで生き物とかは大切なんだと知った。」という意見もあった。
- 他の児童は「自然がなくなったら、動物や魚や虫が生きられないし、食べ物もなくなってしまうので自然のものを大事にしようと思った。」と考えていた。

9 研究協議の内容

- 身近にある環境と結び付けた導入とICTの活用で児童の興味・関心を引き付けていた。